

令和2年度「学校評価」総括表

徳島県立海部高等学校

○学校経営基本方針

「チーム海部」の強い「絆」を生かし、魅力あふれる自然・学習環境で深い「学」びを実現し、生徒一人一人が「夢」をかなえる日本一の高校をめざす。

○本年度重点課題

1. 学力向上の推進及び進路指導の充実
2. 生徒指導の徹底 及び 保健安全・環境教育の充実
3. 特別活動及び海部寮の充実
4. 人権教育の充実
5. 特別支援教育・教育相談の充実
6. 開かれた学校づくり
7. 危機管理体制の充実

基本的なコンセプト

校訓「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

「絆」→心のふれあいを大切にして、豊かな人間性を育てる。

「学」→多様な個性と能力を伸ばし、生きる力を育む。

「夢」→夢を持ち、自己実現に向けて努力する人間を育てる。

○総括評価表（「総合評価」における評定の基準…A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
1 学力向上の推進及び進路指導の充実	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	<p>評価指標</p> <p>①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→85%以上</p> <p>教員による公開授業週間→年2回 学力向上委員会→年4回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①生徒による授業評価アンケート→1回(11月) 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→95.7%【令和元年度95.6%】 教員による相互授業参観週間→1回(10/19~10/23) 学力向上委員会→4回</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①～⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。</p>	<p>①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。また、指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために、各課・各教科会の充実が望まれる。</p>	
	②読書活動の推進	<p>②図書室の年間貸し出し冊数→1,000冊以上 年間を通じての朝の読書の実践 図書館だより→年3回, 全校一斉読書会→年1回</p>	<p>②図書室の年間貸し出し冊数→1004冊(学級文庫を含む。3/11現在) 図書館だより→3回, 全校一斉読書会→1回</p>	<p>②～⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。</p>	<p>②読書活動に力が入れられ来ているが、図書館自体の設備の更新や生徒のニーズに合わせた文学に偏らないような蔵書の見直しを図る必要がある。</p>	<p>②新刊書を増やし、魅力ある図書館にする。生徒からリクエストを出してもらい、要望に応える。また、地域の図書館との戦略的な連携が必要である。図書館だよりの定期的な発行や興味を引くような企画を考え発信していく。</p>
	③授業時数の確保	<p>③授業の実施率→法定授業時数の80%以上</p>	<p>③ 授業の実施率81%(2/19現在)【令和元年度83%(2020/2/19現在)】 臨時休業分を補充するため、夏期休業期間の見直しや学校行事の精選を行い、授業時間数の確保に努めたため、評価指標を達成できた。</p>	<p>③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。</p>	<p>③学校行事の精選を継続して考えていく必要がある。</p>	
	④学習習慣の定着	<p>④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上 生活実態調査実施→年5回, 週末課題→年20回以上</p>	<p>④2時間以上学習者→40.6%【令和元年度43.9%】 生活実態調査→4回(7月, 9月, 11月, 2月), 休業期間中の1回は実施できなかった。 週末課題→20回以上実施できた。</p>	<p>④全く勉強をしていない生徒が毎回数名ずつおり、学習習慣の定着を促していく必要がある。</p>	<p>④学年団との連絡を密にし、常日頃から根気強く、習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。</p>	

1 学 力 向 上 の 推 進 及 び 進 路 指 導 の 充 実	⑤自ら学習する態度の育成	⑤補習出席率→90%以上 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90%以上	⑤補習出席率→90%以上達成できた。 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90.6%達成できた。【令和元年度90.3%】		⑤校内テストについては、早い時期からの学習を徹底させ、得点率の向上を図る。また、プリント学習についてはクラスの状況に応じて、学び直し学習を取り入れていく必要がある。	⑤教科会・学年団との連携を図り、生徒への直接的な声かけを粘り強く行っていく。
	⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥進路講演会→年2回以上 保護者対象進路説明会→年2回以上 生徒への進路ガイダンス実施→年2回以上 教員の企業・大学・短大・専門学校等への視察訪問→年2回以上	⑥進路講演会→1回 保護者対象進路説明会→1回 生徒・保護者への進路ガイダンス→0回 企業・大学等への視察・訪問→0回		⑥保護者対象の進路説明会の出席率について、向上を促す工夫が必要である。	⑥進路への意識を高揚させるため、保護者対象の講演会を開催する。また、定期的に進路情報を発信するなどして、参加人数の増加に努めたい。また、コロナの感染状況を踏まえてオンラインでの実施も検討したい。
	⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進学希望者校外模試全員受験→90%以上	⑦進学希望者校外模試全員受験→88.9%【令和元年度91.6%】	⑦コロナ禍の状況の中、感染予防および、家庭の経済状況を踏まえ、進学先決定者については強く受験を勧めることはしなかったため、目標の達成はできなかった。	⑦校外模試の結果を生徒個々にしっかりとフィードバックしていくことが求められるとともに、教員間で情報の共有を行い、生徒個々への対応が求められる。	⑦全員受験と受験後の見直しを徹底させるとともに、素早く情報共有を行い、生徒面談等を行っていく。
	⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制を図る。三者面談→年1回以上 進路希望調査→年4回実施、進路検討会→年3回以上	⑧三者面談→年1回以上実施できた 進路希望調査→3回、進路検討会→6回	⑧達成できた。	⑧職員間の情報共有と三者の進路に関するさらなる理解と意思統一が求められる。	⑧進学検討会では、入試改革等新しい情報を正確に共有していく必要がある。また、職員の研修の場としての意識付けも必要である。
	⑨就職指導の充実	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年2回以上 三者面談→年1回以上 個人面談→年2回以上 三年模擬面接練習→5回以上 三年就職補習の出席率→90%以上	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→2回 三者面談・個別面談の実施→3回 模擬面接練習→5回 就職補習の出席率→90%	⑨模擬面接では全ての教員が協力し、多くの先生方に協力いただき、充実した面接練習ができた。	⑨コロナ禍の影響で就職試験も変化があった。今まで以上に、適性等を十分考慮し、慎重な進路決定をさせていくべきである。また、就職内定後の指導もしっかり行うことが求められる。	⑨進路情報の適切な処理を行い、生徒保護者が進路決定において判断しやすく、意識が高まるような情報を提供していきたい。低学年より、進路意識を高める指導に取り組みたい。
⑩各種検定の合格率の上昇	⑩全商検定(簿記、情報処理、ビジネス文書、商業経済、珠算・電卓) →2級合格率50%以上、3種目1級合格率10%以上 実用英語技能検定→準2級・2級合格率80%以上 GTEC→CEFRでA2レベル相当以上取得者10%以上	⑩情報ビジネス科検定合格率 2級合格率65%、1級3種目合格者27% 実用英語技能検定、準2級・2級合格率→58% GTEC・CEFRでA2レベル相当以上取得者→80%	⑩全商検定については目標を達成できた。実用英語技能検定については、英語への意識を高めるため広く受検生を募ったが、目標には届かなかった。GTECについては、多くの者がA2レベルをクリアすることができた。	⑩全商各検定の1級の難易度が高くなってきている。受験させる検定の見直しをした。また、英語検定については、実情に応じて目標値の再設定を行い指導することが望まれる。	⑩授業に関連する各種検定の学習指導計画の見直しと補習体制の合理化を検討していきたい。	

	活動計画	評価指標の実施状況	(所見)			
1 学力向上の推進及び進路指導の充実	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	①-1教科・科目において、生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。 ①-2授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など、テストを生かした指導方法の改善を図る。 ①-3公開授業週間を充実し、授業力向上を目指す。 ②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をスローガンに朝の読書の充実を図る。	①教科・科目において、授業評価アンケートを実施し、生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を10月に設定し、授業力向上を目指した。 ②学級文庫を設置するなどして、朝の読書の充実を図った。	①授業アンケートを実施することにより、生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。 ②学校評価アンケートで、朝読ができていないと答えた生徒は96%。本を忘れてきた生徒は、学級文庫を利用することで読書ができています。	①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。 ②部活動で忙しい生徒や読書習慣のない生徒にとっては、朝読だけが唯一の読書の時間であるため、しっかりと取り組ませたい。	①授業評価アンケート・公開授業週間の充実を図る。 ②朝読の時間を継続する。
	②読書活動の推進					
	③授業時数の確保	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。	③夏期休業中の日程見直しや学校行事の精選、学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努めた。	③夏期休業の見直し等により、臨時休業中の授業日数を補充することができた。	③授業の実施率については、現在の評価制度で問題は無い。	③学校行事の精選を継続していく必要がある。
	④学習習慣の定着	④全ての生徒の学習習慣の定着を図るために、きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施し、課題の工夫と実施の徹底を図る。	④英・数・国を中心に週末課題を実施し、課題提出の徹底を図った。	④⑤週末課題やプリント学習の中身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。	④学年やクラスによって提出率に差がある点について改善の必要がある。	④～⑩保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。
	⑤自ら学習する態度の育成	⑤-1普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を、根気強く呼びかけ、個人面談で学習の必要性を説得していく。 ⑤-2プリントの中身について、難易度に考慮し、モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。	⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために、生活実態調査を実施するなど、意識の高揚に努めた。また、自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが、質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やす工夫をしたい。	⑤⑥⑦⑧保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。	⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行っていく必要がある。	
	⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥早くから保護者への広報活動に取り組み、説明会が意義あるものとなるよう工夫する。	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。		⑥多様な進路選択に対応できる説明会になるようにしなければならない。	
	⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進学希望者に、校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。	⑦校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。		⑦多様な進路選択に対応していくことが求められる。	
	⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制をつくる。	⑧面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。		⑧保護者への情報提供や進路についての啓発活動が必要である。	
	⑨就職指導の充実	⑨-1 PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報(就職先・求人数等)を充実させる。 ⑨-2 就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の情報提供機能を充実させる。就職補習を充実させる。就職試験対策を強化する。	⑨コロナ禍で対面での就職相談の機会は減少した。資料等生徒を通じて進路情報の発信(就職先・求人数等)を充実させることができた。	⑨個別の保護者相談では卒業生の動向や訪問企業の特徴などの説明をすることができた。	⑨家庭相談が不十分で、就職から進学に急に変更するケースが多かった。2年次までに就職か進学かを決定するよう指導していかなければならない。	⑨生活習慣の改善や礼儀作法、学習態度等、学力と並行して就職に必要な生き方に関する指導を強化していきたい。
	⑩各種検定の合格率の上昇	⑩能力に応じた各種検定を積極的に受験させ、合格できるよう支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。	⑩授業に関連する各種検定の指導計画の見直しと、補習体制の強化、個別指導に努めた。	⑩進路指導体制の充実により、少しずつ合理的になってきている。	⑩コロナの影響で試験の形態の変化があった。競争倍率が高くなったり、ディスカッションなどが取り入れられたりしたため、様々な指導が必要となってきている。	⑩就職にも学力が必要であり、補習以外でも自ら学習するような習慣づくりを確立させたい。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
2 生徒指導の徹底及び保健安全・環境教育の充実	①基本的な生活習慣の確立 ②身だしなみ指導の徹底 ③規範意識の向上 ④安全教育の徹底 ⑤保健安全指導の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標</div> ①自主的にあいさつができる生徒→80%以上 遅刻→1日あたり1人以下 ②全体での服装・頭髪検査→年12回以上 ③規範意識の向上を図るために立哨指導を実施する。 立哨指導日数→年110日以上 ④自転車車体検査→年3回以上 交通安全講話→年1回 交通安全教室→年4回 携帯電話安全教室→年1回 ⑤保健便りの発行→年8回 薬物乱用防止教室、救命講習会→各年1回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標の達成度</div> ①自主的にあいさつができる生徒の割合→93% 遅刻→1日あたり1.61人 ②全体での服装・頭髪検査実施回数→9回 ③交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→95日 ④自転車車体検査実施→2回 交通安全講話→1回(牟岐署交通課) 自動車学校入校指導→4回[53名] 携帯電話安全教室→1回 ⑤保健便りの発行→6回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→1回(10月)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(評定)</div> <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">(所見)</div> ①②基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒がいる。全教員で粘り強く指導していく必要がある。 ③～⑤講演会や啓発活動を通して、生徒の意識向上に努めることができた。	①～⑤各HR・各学年間において、一貫した指導体制(温度差を生じない)が築かれていない。 ①服装・頭髪指導は、これからは粘り強く指導する。説明を十分にし、保護者の理解や協力を得る。	①～⑤生徒指導にあつては、説明を十分に行うことで保護者の理解・協力を得るように努める。 ①～⑤地域の方々の意見・要望を真摯に受け止め、その期待に応えられる学校であり続けるため、より一層の「生徒指導」の充実を推進する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> ①生徒会によるあいさつ運動の実施、始業時間の遵守や言葉づかい等、マナーについて指導を徹底させる。 ②違反者については、担任による常時指導(家庭連絡を含む)、学年や生徒課、保護者とも連携し、身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善を図る。 ③交通ルール・マナーの遵守について、生徒会や教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止や携帯電話でのトラブル防止に努める。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> ①校訓である「絆」「学」「夢」に沿った学校生活の満足度→86% ②違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。地域保護者からの信頼度→80% ③教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。牟岐署と連携し、月1回実施のあいさつ運動時に交通安全啓発を行った。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。	②生徒指導件数を減少させ、さらに規範意識を高める指導が必要である。 ③雨の日の登下校について、一層注意を促す必要がある。 ⑤家庭連絡文書(保健便り・食育便りなど)の有効活用に努める。また、特に感染症に対する評価の項目を設ける必要がある。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
3 特別活動 及び 海部寮 の 充実	<p>①ボランティア活動の充実</p> <p>②学校行事の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>①小・中・高連携ボランティア→年1回以上 特別支援学校との交流学習→年2回以上 自主的ボランティア活動→1人年1回以上 (地域のボランティア, 収集活動, 募金活動など)</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→年10回以上</p> <p>海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上</p> <p>③部活動顧問会議→年3回以上, 入部率→95%以上</p> <p>④舎監会議→年2回, 寮運営協議会→年1回, 寮生会議→年5回, 寮生保護者会→年1回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①小・中・高連携ボランティア→年0回 特別支援学校との交流→年0回 自主的ボランティア活動→1人年1回以上42% (地域のボランティア, 収集活動, 募金活動など)</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員のあいさつ運動→8回</p> <p>海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→77%</p> <p>③部活動顧問会議→年3回, 入部率→98%</p> <p>④舎監会議→年3回, 寮運営協議会→年1回 寮生会議→年3回, 寮生保護者会→年1回</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①②生徒会役員による校内ゴミ拾い, 運動部生徒による清掃活動など継続的自主活動が見られた。</p>	<p>①②③特別活動における満足度とともに, 安全に生徒が取り組むことができるものへとってきた。</p> <p>①ボランティア部の生徒だけではなく, それ以外の生徒がボランティア活動に参加しやすいように, 求人情報ボードのようなボランティア活動の予定が分かるものを学校に設置してはどうか。</p>	<p>①自主的ボランティア活動への積極的参加の促進を図る。</p> <p>②あいさつ運動の継続と各学校行事の内容検討と充実を図る。</p>
	<p>③部活動の活性化</p> <p>④円滑な寮の運営</p>	<p>活動計画</p> <p>①地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめることで豊かな心を育む。また, ボランティア活動を積極的に行うことで生徒のリーダー性を養う。</p> <p>②「あいさつの励行」に積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ, 技術・技能, 仲間意識の向上に取り組む, 昨年度以上の成績をあげる。</p> <p>④寮生自身が, 自ら寮生活のマナーやルールを守り, 自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①海南駅を季節に合わせて飾り付けを行った。</p> <p>②「あいさつの励行」について生徒会で話し合い, あいさつ運動に積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会の種目や運営について, 工夫して取り組んだ。更に充実した活動になるように, 意見を話し合うことができた。</p> <p>③中学校との合同練習や大会を主催することで魅力ある学校, 部活動への取り組みを行った。また文化部では地域との連携を図ることでより充実した活動となった。また男子バスケットボール部では選手権大会, 新人大会で優勝を飾った。</p> <p>④寮生自身が, 自ら寮生活のマナーやルールを守り, 自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。</p>	<p>③部活動においては部員数を保ちながら, 積極的な取り組みを続けている。各部共に工夫を凝らし, 生徒が充実できる活動を行うことができた。</p> <p>④日直・舎監・部顧問・寮生の保護者・寮運営協議会, それぞれが協力して寮の運営にあたり, 寮生が自立できる環境作りに取り組んだ。</p>	<p>③顧問会議を定期的に開催し, 教員間のコミュニケーションを図る。部活動を通して, 豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため, さらに近隣中学校との連携を深め, 大会での実績を残すことができるようにする。</p> <p>④次年度に向けて, 寮の在り方について話し合いを行った。寮生は大きなトラブルもなく自立を目指し, 生活を行うことができた。</p>	<p>③顧問会議を定期的に開催し, 教員間のコミュニケーションを図る。部活動を通して, 豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため, さらに近隣中学校との連携を深め, 大会での実績を残すことができるようにする。</p> <p>④自立した生活ができるよう教員のサポートを充実させる。また, 生活環境を整え, 美化に努める。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
4 人 権 教 育 の 充 実	①人権教育の推進	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標</div> ①-1人権学習HR活動→年5回 ①-2人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→75%以上 ①-3「人権だより」の発行→年3回 ①-4人権教育教職員研修→年3回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">評価指標の達成度</div> ①-1人権学習HR活動→5回 ①-2 人権・道徳教育講演会 生徒満足度→99%【令和元年度97.5%】 ①-3「人権だより」の発行→3回 ①-4 人権教育教職員研修→5回	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">総合評価</div> (評定) <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div>	①-1文部科学省から出されている「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)実践編」をもとに、体験的参加型授業を展開し、一人ひとりの生徒が人権共存の考え方を理解できるように工夫した。	①-1学んだことや感想に書いたことをもとに、社会の変化や様々な人権問題に自主的、主体的に対応できる実践力を育てていきたい。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> ①-1HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(『安心・自信・自由』)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。 ①-2人権・道徳教育映画会や人権・道徳教育講演会等の内容を充実させる。 ①-3人権学習HR活動や人権・道徳教育講演会等について「人権だより」で発信し、生徒・保護者・教職員で共有し、人権意識の高揚を図る。 ①-4徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究大会の研修成果等の共有を図る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> ①-1同和問題を中心に、学年統一のテーマで実施した。今年度は初回のテーマを「新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」に差し替え、全学年で取り上げた。また、1・2年生の第5回目は、テーマにそった外部講師を招いて行った。 ①-2人権・道徳教育講演会は、講師にミュージシャンの堀内佳氏をお招きし、「いま・しあわせに生きるために！」というテーマで、コンサート形式で行った。 ①-3人権・道徳教育講演会の内容や生徒の感想、人権交流集会の案内、人権啓発作品などを掲載した。 ①-4校内人権教育教職員研修5回 主な校外研修(参加人数) 四国地区人権教育研究大会(中止・文書開催) 徳島県人権教育研究大会(中止・文書開催) 徳島県高等学校人権教育研究大会(オンライン)(1名) 人権教育フォーラム(中止) 部落解放・人権徳島地方研究集会(オンライン)(1名) 海部郡人権教育研究大会(2名) 海陽町分館巡回人権学習会(参加見合わせ) 海陽町人権学習会(参加見合わせ)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(所見)</div> ①様々な学習機会において、人権に関する知識を更新し、考えを深めさせることができた。学んだことや考えたことを自分のこととして捉え、生活の中で実践していく姿勢を育てていくことの必要性を強く感じた。	①-2外部講師を招き、当事者の声や社会の現状から差別の実態について深く学ぶことができた。 ①-3コロナの影響により、人権・道徳教育講演会の保護者参加を見合わせたため、講演の内容について詳しく「人権だより」に掲載し、生徒・教職員の振り返りと保護者への啓発機会とした。 ①-4コロナの影響で校外研修が激減したが、校内研修を増やすことで啓発機会維持できるよう努めた。また、研修会や大会等での学びは、校内研修等で報告し、周知している。	①-2生徒の心に響く人権啓発行事になるよう、魅力ある映画や講師の選定をしていく必要がある。 ①-3生徒・保護者・教員が情報を共有でき、話題のきっかけとなる「人権だより」になるよう、内容の充実を図る。 ①-4学校・地域・家庭・関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要である。そのためにも、教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容の工夫・改善に努める。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
5 特別支援教育・教育相談の充実	①特別支援教育の充実 ②教育相談の充実	<p>評価指標</p> <p>①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回</p> <p>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①校内研修会→1回 特別支援・不登校対策委員会実施→4回</p> <p>②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→4回</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>①②「気になる生徒」については、教育相談学年部会から特別支援・不登校対策委員会へ上げ、教員間の共通理解を図ることができている。また近年小中高の連携も進んできている。</p>	<p>①②外部機関との連携を図りながら、更に支援体制を整える。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①習熟度別授業の展開やチームティーチングなどの実施、また、すべての生徒に分かりやすい授業のユニバーサル化に取り組む。</p> <p>②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、職員全員の共通理解を図ることができた。</p> <p>②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。</p>	<p>(所見)</p> <p>①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。</p> <p>生徒臨休の延長により、特別支援・不登校対策委員会、教育相談学年部会を4回に変更して実施。臨休やコロナウイルス感染症による心の変化にも配慮できた。</p>	<p>①習熟度別授業やチームティーチングを展開した。</p> <p>②教育相談週間では、気になる生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。</p>	<p>①チームティーチングがよりいっそう効果的なものになるように工夫を行う。授業のユニバーサル化を目指し、学習教材の工夫を行う。</p> <p>②悩みアンケートに記入されていることを面談などで詳しく把握し、早期に対応する。</p>
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
6 開かれた学校づくり	①地域に根ざした運営	<p>評価指標</p> <p>①海高祭への参加→600人以上 ホームページアクセス→年200,000回以上 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回</p> <p>活動計画</p> <p>①保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①保護者不参加 ホームページアクセス→年233,787回(4/1~2/12) 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①各種行事中止または生徒・職員のみ参加の形での実施となった。ホームページの更新は前年度以上に行われた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>(所見)</p> <p>ホームページアクセス数は前年比121%で大幅に増えた。</p>	<p>①ホームページだけでなく、地元海陽町の広報誌への記事の掲載も、評判が良い。地域住民の幅広い年齢層を考えると、多様な媒体での広報が求められている。</p>	<p>①保護者への情報公開の充実を図る。今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
7 危機管理 体制の 充実	①危機管理意識の 育成	<div data-bbox="450 220 656 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価指標</div> <p>①-1防災避難訓練→年3回</p> <p>①-2防災講演会→年1回 各種防災フォーラム・研修会などに参加</p> <p>①-3普通救命講習→年1回</p> <p>①-4防災HR活動→年1回</p>	<div data-bbox="904 220 1238 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価指標の達成度</div> <p>①-1防災津波避難訓練→年2回 小・中・高・地域合同避難訓練→なし 町主催津波避難訓練→年1回</p> <p>①-2防災講演会→年1回(予定) 防災クラブ交流イベントに参加(オンライン) 防災教育の生徒満足度→96% 【令和元年度94%】</p> <p>①-3普通救命講習→年0回</p> <p>①-4防災遠足→年0回</p> <p>①-5防災HR活動→年1回</p>	<div data-bbox="1426 236 1624 268" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">総合評価</div> <p>(評定)</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>	<p>①校内の避難訓練だけでなく、町や地域との連携を意識して、校外の防災訓練への参加を呼びかけてほしい。また、現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。</p>	<p>①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。</p>
		<div data-bbox="450 662 656 694" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動計画</div> <p>①防災・減災教育啓発に力を注ぎ、防災意識の持続と高揚を図るとともに、危機管理意識や将来における各地域の防災リーダーとしての自覚を促す。</p>	<div data-bbox="904 662 1285 694" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動計画の実施状況</div> <p>①南部県民局・海陽町役場・海陽町社会福祉協議会などの関係諸機関と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付け、将来の防災リーダーとしての自覚を促すため校内では年2回の避難訓練を実施、防災講演会は年1回実施した。また、今年度は4名の生徒が「高校生防災士」の資格を取得することができた。高校生防災士を中心にファミリー体験学習推進プロジェクトや中・高校生防災クラブ交流イベントに参加した</p>	<div data-bbox="1426 662 1624 694" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(所見)</div> <p>①様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。</p>		